

平成24年度和歌山県立高等学校入学者選抜学力検査における新学習指導要領の先行実施内容の取扱いについて

平成21年度～平成23年度の先行実施されている中学校第1学年及び第3学年数学並びに中学校第1学年～第3学年理科の移行措置内容を、平成24年度和歌山県立高等学校入学者選抜学力検査の出題範囲に含むこととします。

- 移行措置（先行実施）の概要
別紙のとおり

<参考> 中学校数学・理科（文部科学省のホームページより）
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/ikou/008.pdf

- 平成23年3月またはそれ以前に中学校を卒業された方については、先行実施内容等について、卒業された中学校、または次のところに御相談ください。

- ・各市町村教育委員会

- ・和歌山県教育庁学校教育局学校指導課高校教育班

電 話：073-441-3662

F A X：073-441-3652

<参考> 文部科学省 中学校移行措置関連資料

- ・文部科学省告示第99号

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/ikou/006.pdf

中学校数学の移行措置について

※ 現行課程（明朝体（細字）は省略）に新課程のゴシック体（太字）を追加して指導
 ※ 明朝体（細字）の内容に付随する内容の取扱い（内取）は当然適用されない

第1学年（平成21～23年度）

現行課程	新課程
<p>A 数と式</p> <p>(1) 正の数・負の数</p> <p>ア 正の数と負の数の意味</p> <p>イ 正の数と負の数の四則計算の意味と計算</p> <p>(2) 文字を用いた式</p> <p>ア 文字を用いることの意味</p> <p>イ 文字を用いた式における乗法・除法</p> <p>ウ 簡単な一次式の加法・減法</p> <p>(3) 一元一次方程式</p> <p>ア 方程式などの意味</p> <p>イ 等式の性質と方程式</p> <p>ウ 簡単な一元一次方程式の解法と利用</p> <p>B 図形</p> <p>(1) 平面図形</p> <p>ア 線対称、点対称</p> <p>イ 基本的な作図とその利用</p> <p>(2) 空間図形</p> <p>ア 空間における直線や平面の位置関係</p> <p>イ 空間図形の構成や表現</p> <p>【内取3(4) 投影図は扱わない】</p> <p>ウ 扇形の弧の長さや面積、基本的な柱体、錐体の表面積と体積</p> <p>C 数量関係</p> <p>(1) 比例、反比例</p> <p>ア 比例・反比例の意味</p> <p>イ 座標の意味</p> <p>ウ 比例・反比例の特徴</p> <p>エ 比例・反比例の活用</p> <p>〔用語・記号〕 変数 変域</p>	<p>A 数と式</p> <p>(1) 正の数・負の数</p> <p>ア 正の数と負の数の必要性と意味</p> <p>イ 正の数と負の数の四則計算の意味</p> <p>ウ 正の数と負の数の四則計算</p> <p>エ 具体的場面における表現や処理</p> <p>【内取3(1) 数の集合と四則計算の可能性】</p> <p>(2) 文字を用いた式</p> <p>ア 文字を用いることの意味</p> <p>イ 文字を用いた式における乗法・除法</p> <p>ウ 簡単な一次式の加法・減法</p> <p>エ 文字を用いた式による表現や読み取り</p> <p>【内取3(2) 不等式】</p> <p>(3) 一元一次方程式</p> <p>ア 方程式などの意味</p> <p>イ 等式の性質と方程式</p> <p>ウ 簡単な一元一次方程式の解法と活用</p> <p>【内取3(3) 簡単な比例式】</p> <p>B 図形</p> <p>(1) 平面図形</p> <p>イ 平行移動、対称移動、回転移動</p> <p>ア 基本的な作図とその活用</p> <p>(2) 空間図形</p> <p>ア 空間における直線や平面の位置関係</p> <p>イ 空間図形の構成や表現</p> <p>【内取3(5)のうち「投影図」】</p> <p>ウ 扇形の弧の長さや面積、基本的な柱体、錐体、球の表面積と体積</p> <p>C 関数</p> <p>(1) 比例、反比例</p> <p>ア 関数関係の意味</p> <p>イ 比例・反比例の意味</p> <p>ウ 座標の意味</p> <p>エ 比例・反比例の特徴</p> <p>オ 比例・反比例を用いた具体的な事象の説明</p> <p>〔用語・記号〕 関数 変数 変域</p> <p>D 資料の活用</p> <p>(1) 資料の散らばりと代表値</p> <p>ア ヒストグラムや代表値の必要性と意味</p> <p>イ ヒストグラムや代表値による資料の傾向の把握と表現</p> <p>【内取3(6) 誤差や近似値、$a \times 10^n$】</p> <p>〔用語・記号〕 平均値 中央値 最頻値 相対度数 範囲 階級</p>

※〔用語・記号〕については、各分野のうち移行措置関係のみ抜粋。
 ※〔数学的活動〕は新学習指導要領の規定によることも可能。

第2学年 (平成21～23年度)

現行課程	新課程
<p>A 数と式</p> <p>(1) 文字を用いた式の四則計算</p> <p>ア 簡単な整式の加法・減法, 単項式の乗法・除法</p> <p>イ 文字式の利用</p> <p>ウ 目的に応じた式の変形</p> <p>(2) 連立二元一次方程式</p> <p>ア 二元一次方程式とその解の意味</p> <p>イ 連立方程式とその解の意味</p> <p>ウ 連立方程式の解法と利用</p> <p>B 図形</p> <p>(1) 平面図形と平行線の性質</p> <p>ア 平行線や角の性質</p> <p>イ 多角形の角の性質</p> <p>(2) 図形の合同</p> <p>ア 証明の意義と方法</p> <p>イ 三角形の合同条件, 三角形や平行四辺形の性質の論証 (新ではア・ウに分割)</p> <p>ウ 円周角と中心角の関係 [→ H22年度から, 第3学年で指導]</p> <p>C 数量関係</p> <p>(1) 一次関数</p> <p>ア 事象と一次関数</p> <p>イ 一次関数のグラフの特徴と利用</p> <p>ウ 二元一次方程式と関数との関係</p> <p>(2) 確率</p> <p>ア 起こり得る場合</p> <p>イ 確率の意味と求め方</p>	<p>A 数と式</p> <p>(1) 文字を用いた式の四則計算</p> <p>ア 簡単な整式の加法・減法, 単項式の乗法・除法</p> <p>イ 文字式の利用</p> <p>ウ 目的に応じた式の変形</p> <p>(2) 連立二元一次方程式</p> <p>ア 二元一次方程式とその解の意味</p> <p>イ 連立方程式とその解の意味</p> <p>ウ 連立方程式の解法と活用</p> <p>B 図形</p> <p>(1) 平面図形と平行線の性質</p> <p>ア 平行線や角の性質</p> <p>イ 多角形の角の性質</p> <p>(2) 図形の合同</p> <p>イ 証明の必要性和意味及びその方法</p> <p>ア 三角形の合同条件</p> <p>ウ 三角形や平行四辺形の性質の論証</p> <p>C 関数</p> <p>(1) 一次関数</p> <p>ア 事象と一次関数</p> <p>イ 一次関数の特徴</p> <p>ウ 二元一次方程式と関数との関係</p> <p>エ 一次関数を用いた具体的な事象の説明</p> <p>D 資料の活用</p> <p>(1) 確率</p> <p>ア 確率の意味と求め方</p> <p>イ 確率を用いた不確定な事象の説明</p>

※ [数学的活動] は新学習指導要領の規定によることも可能。

第3学年 (平成22・23年度)

現行課程	新課程
<p>A 数と式</p> <p>(1) 平方根 ア 数の平方根の必要性和意味 イ 数の平方根を含む式の計算</p> <p>(2) 式の展開と因数分解 ア 単項式と多項式の乗法, 多項式を単項式で割る除法 イ 簡単な一次式の乗法, 簡単な式の展開や因数分解</p> <p>(3) 二次方程式 ア 二次方程式の必要性和解の意味 イ 簡単な二次方程式の解法と利用 【内取3(4)のうち「xの係数が偶数である簡単な例で, 平方の形に変形して解く方法は知ることにとどめる」及び「解の公式は取り扱わない」】</p> <p>〔用語・記号〕 根号 素数 因数 $\sqrt{\quad}$</p> <p>B 図形</p> <p>(1) 図形の相似 ア 図形の相似の意味, 三角形の相似条件を用いた図形の性質の論証(新ではア・イに分割) イ 平行線と線分の比 ウ 相似の考えの活用</p> <p>(2) 三平方の定理 ア 三平方の定理の証明 イ 三平方の定理の意味と利用</p> <p>C 数量関係</p> <p>(1) 関数$y=ax^2$ ア 事象と関数$y=ax^2$ イ 関数$y=ax^2$のグラフの特徴と関数のとる値の変化の割合</p>	<p>A 数と式</p> <p>(1) 平方根 ア 数の平方根の必要性和意味 イ 数の平方根を含む式の計算 ウ 具体的な場面での平方根を用いた処理</p> <p>(2) 式の展開と因数分解 ア 単項式と多項式の乗法, 多項式を単項式で割る除法 イ 簡単な一次式の乗法, 簡単な式の展開や因数分解 ウ 文字を用いた式による数量関係の説明</p> <p>(3) 二次方程式 ア 二次方程式の必要性和解の意味 イ 因数分解や平方の形に変形することによる二次方程式の解法 【内取3(3)のうち「平方して解くことの指導では係数が偶数であるものを中心とする」】 ウ 解の公式を用いた二次方程式の解法 エ 二次方程式の活用</p> <p>〔用語・記号〕 根号 有理数 無理数 因数 $\sqrt{\quad}$</p> <p>B 図形</p> <p>(1) 図形の相似 ア 図形の相似の意味, 三角形の相似条件 イ 三角形の相似条件を用いた図形の性質の論証 ウ 平行線と線分の比 エ 相似な図形の面積比と体積比 オ 相似な図形の性質の活用</p> <p>(2) 円周角と中心角の関係 ア 円周角と中心角の関係の意味と証明 イ 円周角と中心角の関係の活用 【内取3(4) 円周角の定理の逆】 〔→(2)は, 現行第2学年から移行。但し「円周角の定理の逆」は追加。〕</p> <p>(3) 三平方の定理 ア 三平方の定理の意味と証明 イ 三平方の定理の活用</p> <p>C 関数</p> <p>(1) 関数$y=ax^2$ ア 事象と関数$y=ax^2$ イ 関数$y=ax^2$の特徴 ウ 関数$y=ax^2$を用いた具体的な事象の説明 エ いろいろな事象と関数</p> <p>D 資料の活用</p> <p>(1) 標本調査 ア 標本調査の必要性和意味 イ 標本調査による母集団の傾向の説明</p> <p>〔用語・記号〕 全数調査</p>

※〔用語・記号〕については, 各分野のうち移行措置関係のみ抜粋。
 ※〔数学的活動〕は新学習指導要領の規定によることも可能。

中学校理科の移行措置について

※ 現行課程（明朝体（細字）は省略）に新課程のゴシック体（太字）を追加して指導
 ※ 明朝体（細字）の内容に付随する内容の取扱い（内取）は当然適用されない

第1学年（平成21～23年度）

	現行課程	新課程
第1分野	<p>(1) 身近な物理現象</p> <p>ア 光と音</p> <p>(7) 光の反射・屈折</p> <p>(4) 凸レンズの働き</p> <p>(7) 音の性質</p> <p>イ 力と圧力</p> <p>(7) 力の働きと力のつり合い [→ 後半は第3学年の(5)ア(7)に移行]</p> <p>(4) 圧力 【内取3(2)オ 水圧は扱わない】</p> <p>(2) 身の回りの物質</p> <p>ア 物質のすがた</p> <p>(7) 物質のすがた 【内取3(3)アのうち「密度」に関する部分】</p> <p>(4) 状態変化と体積変化</p> <p>(7) 気体の発生と性質</p> <p>イ 水溶液</p> <p>(7) 水溶液</p> <p>(4) 酸・アルカリ・中和 [→ H23の移行措置で第3学年で指導]</p>	<p>(1) 身近な物理現象</p> <p>ア 光と音</p> <p>(7) 光の反射・屈折</p> <p>(4) 凸レンズの働き</p> <p>(7) 音の性質</p> <p>イ 力と圧力</p> <p>(7) 力の働き 【内取3(2)エ 力とばねの伸び、重さと質量の違い】</p> <p>(4) 圧力 (水圧を含む) 【内取3(2)オ 水圧, 浮力】</p> <p>(2) 身の回りの物質</p> <p>ア 物質のすがた</p> <p>(7) 身の回りの物質とその性質 【内取3(3)アのうち「代表的なプラスチックの性質】</p> <p>ウ 状態変化</p> <p>(7) 状態変化と熱 【内取3(3)オ 粒子のモデル, 粒子の運動】</p> <p>(4) 物質の融点と沸点</p> <p>ア 物質のすがた</p> <p>(4) 気体の発生と性質</p> <p>イ 水溶液</p> <p>(7) 物質の溶解</p> <p>(4) 溶解度と再結晶 【内取3(3)ウ 粒子のモデル, 質量パーセント濃度】</p>
第2分野	<p>(1) 植物の生活と種類</p> <p>ア 生物の観察</p> <p>イ 植物の体のつくりと働き</p> <p>(7) 花のつくりと働き</p> <p>(4) 葉・茎・根のつくりと働き</p> <p>ウ 植物の仲間</p> <p>(7) 種子植物の仲間</p> <p>(2) 大地の変化</p> <p>ア 地層と過去の様子</p> <p>イ 火山と地震</p> <p>(7) 火山活動と火成岩 【内取3(3)イ 火山岩・深成岩は各1種類】</p> <p>(4) 地震の伝わり方と地球内部の働き</p>	<p>(1) 植物の生活と種類</p> <p>ア 生物の観察</p> <p>イ 植物の体のつくりと働き</p> <p>(7) 花のつくりと働き</p> <p>(4) 葉・茎・根のつくりと働き</p> <p>ウ 植物の仲間</p> <p>(7) 種子植物の仲間 (4) 種子をつくらない植物の仲間 【内取3(2)エ シダ植物やコケ植物が胞子をつくること】</p> <p>(2) 大地の成り立ちと変化</p> <p>イ 地層の重なりと過去の様子 【内取3(3)ウのうち「断層, 褶曲】</p> <p>ア 火山と地震</p> <p>(7) 火山活動と火成岩 【内取3(3)アのうち「火山岩及び深成岩は代表的な岩石を扱う】</p> <p>(4) 地震の伝わり方と地球内部の働き</p>

※ 現行課程では、両分野とも現行の内取3(1)で指導順序を規定しているが、新課程では当該規定は削除。このため、移行期間中においても両分野とも現行の内取3(1)は適用除外とする。(以下同じ)

	現行課程	新課程
第1分野	<p>(3) 電流とその利用 ア 電流 (7) 静電気と電流 (4) 回路と電流・電圧 (ウ) 電流・電圧と抵抗 イ 電流の利用 (7) 電流と磁界 (4) 磁界中の電流が受ける力 (ウ) 電気と光・熱 【内取3(4)オ 電力量の概念は扱わない。定量的な扱いはしない。】 (4) 化学変化と原子・分子 ア 物質の成り立ち (7) 物質の分解 (4) 原子・分子 イ 化学変化と物質の質量 (7) 化合と化学反応式 (4) 化学変化と物質の質量</p>	<p>(3) 電流とその利用 ア 電流 (エ) 静電気と電流 【内取3(4)エ 電流が電子の流れであること】 (7) 回路と電流・電圧 (4) 電流・電圧と抵抗 (ウ) 電気とそのエネルギー 【内取3(4)ウ 電力量、熱量】 イ 電流と磁界 (7) 電流がつくる磁界 (4) 磁界中の電流が受ける力 (ウ) 電磁誘導と発電 (このうち「直流と交流の違い」) (4) 化学変化と原子・分子 ア 物質の成り立ち (7) 物質の分解 (4) 原子・分子 イ 化学変化 (7) 化合 (4) 酸化と還元 【→現行(6)アから移行】 【内取3(5)簡単なものを扱う】 (ウ) 化学変化と熱 【→現行(6)アから移行】 ウ 化学変化と物質の質量 (7) 化学変化と質量の保存 (4) 質量変化の規則性</p>
第2分野	<p>(3) 動物の生活と種類 ア 動物の体のつくりと働き (7) 動物の体とつくりの働きの観察 (4) 刺激と反応 (ウ) 生命を維持する働き イ 動物の仲間 (7) 動物の仲間 (4) 天気とその変化 ア 気象観測 イ 天気の変化 (7) 霧や雲の発生 (4) 前線の通過と天気の変化</p>	<p>(3) 動物の生活と生物の変遷 ア 生物と細胞 イ 動物の体のつくりと働き (4) 刺激と反応 (7) 生命を維持する働き ウ 動物の仲間 (7) 脊椎動物の仲間 【内取3(4)ウ 脊椎動物の体の表面の違い等】 (4) 無脊椎動物の仲間 【内取3(4)エ 節足動物や軟体動物の観察と脊椎動物との比較】 エ 生物の変遷と進化 【内取3(4)オ 進化の証拠や具体例、生息環境での生活に都合のよい特徴】 (4) 気象とその変化 ア 気象観測 イ 天気の変化 (7) 霧や雲の発生 【内取3(5)アのうち「水の循環」】 (4) 前線の通過と天気の変化 ウ 日本の気象 (7) 日本の天気の特徴 (4) 大気の動きと海洋の影響 【内取3(5)ウ 大気の動き、地球の大きさや大気の厚さ】</p>

	現行課程	新課程
第1分野	<p>(5) 運動の規則性 ア 運動の規則性</p> <p>(7) 運動の速さと向き (4) 力と運動</p> <p>(ウ) エネルギーの変換と保存</p> <p>(6) 物質と化学反応の利用 ア 物質と化学反応の利用 (7) 酸化と還元</p> <p>(4) 化学変化とエネルギー 【内取3(7)イのうち「イオンを扱わない」】</p> <p>(7) 科学技術と人間 ア エネルギー資源</p> <p>(7) エネルギー資源 イ 科学技術と人間 (2分野との選択)</p>	<p>(5) 運動とエネルギー ア 運動の規則性 (7) 力のつり合い</p> <p>(4) 運動の速さと向き (ウ) 力と運動</p> <p>イ 力学的エネルギー (7) 仕事とエネルギー 【内取3(6)ウ 仕事の原理】 (4) 力学的エネルギーの保存</p> <p>(6) 化学変化とイオン</p> <p>ア 水溶液とイオン (7) 水溶液の電気伝導性 (4) 原子の成り立ちとイオン 【内取3(7)ア 電子と原子核, 陽子, 中性子, イオン式】</p> <p>(ウ) 化学変化と電池 【内取3(7)イのうち「電極で起こる反応を中心に扱う」】</p> <p>イ 酸・アルカリとイオン (7) 酸・アルカリ (4) 中和と塩</p> <p>(7) 科学技術と人間 ア エネルギー (7) 様々なエネルギーとその変換 (4) エネルギー資源 イ 科学技術の発展 ウ 自然環境の保全と科学技術の利用</p>
第2分野	<p>(5) 生物の細胞と生殖 ア 生物と細胞 (7) 植物と動物の細胞の特徴</p> <p>(4) 細胞分裂と生物の成長 イ 生物の殖え方 (7) 生物の殖え方</p> <p>(6) 地球と宇宙 ア 天体の動きと地球の自転・公転 (7) 日周運動と自転 (4) 年周運動と公転 イ 太陽系と惑星 (7) 太陽系と惑星, 恒星</p> <p>(7) 自然と人間 ア 自然と環境 (7) 自然界のつり合い (4) 自然環境の調査と環境 イ 自然と人間 (1分野との選択)</p>	<p>(5) 生命の連続性 ア 生物の成長と殖え方</p> <p>(7) 細胞分裂と生物の成長</p> <p>(4) 生物の殖え方 イ 遺伝の規則性と遺伝子 【内取3(6)ウ 分離の法則, 遺伝子の変化による形質の変化, 遺伝子の本体はDNAであること】</p> <p>(6) 地球と宇宙 ア 天体の動きと地球の自転・公転 (7) 日周運動と自転 (4) 年周運動と公転 イ 太陽系と恒星 (7) 太陽の様子 (ウ) 惑星と恒星 (4) 月の運動と見え方 【内取3(7)ウ 日食や月食】</p> <p>(7) 自然と人間 ア 生物と環境 (7) 自然界のつり合い (4) 自然環境の調査と環境保全 イ 自然の恵みと災害 ウ 自然環境の保全と科学技術の利用</p>

	現行課程	新課程
第1分野	<p>(5) 運動の規則性 ア 運動の規則性</p> <p>(7) 運動の速さと向き (イ) 力と運動</p> <p><u>(ウ) エネルギーの変換と保存</u> 【→ 新課程では、力学的エネルギーは(5)イ, それ以外は(7)ア(7)に分割】</p> <p>(6) 物質と化学反応の利用 ア 物質と化学反応の利用 <u>(7) 酸化と還元</u> 【→ H22の移行措置で第2学年で指導済】</p> <p><u>(イ) 化学変化とエネルギー</u> 【内取3(7)イのうち「イオンを扱わない」】 【→ H22の移行措置で第2学年で指導済】</p> <p>(7) 科学技術と人間 ア エネルギー資源</p> <p>(7) エネルギー資源</p> <p><u>イ 科学技術と人間 (2分野との選択)</u></p>	<p>(5) 運動とエネルギー ア 運動の規則性 <u>(7) 力のつり合い</u> 【→ 現行(1)イ(7)から一部移行】 (イ) 運動の速さと向き (ウ) 力と運動 イ 力学的エネルギー (7) 仕事とエネルギー 【内取3(6)ウ 仕事の原理】 (イ) 力学的エネルギーの保存 【内取3(6)エ 摩擦】</p> <p>(6) 化学変化とイオン</p> <p>ア 水溶液とイオン (7) 水溶液の電気伝導性 (イ) 原子の成り立ちとイオン 【内取3(7)ア 電子と原子核, 陽子, 中性子, イオン式】</p> <p>(ウ) 化学変化と電池 【内取3(7)イ 電極で起こる反応を中心に扱う, 日常生活等で利用される代表的な電池】</p> <p>イ 酸・アルカリとイオン (7) 酸・アルカリ (イ) 中和と塩 【内取3(7)ウ pH】 【内取3(7)エ 水に溶ける(溶けない)塩】</p> <p>(7) 科学技術と人間 ア エネルギー (7) 様々なエネルギーとその変換 【内取3(8)ア 熱の伝わり方, エネルギーの総量保存及び変換効率】 (イ) エネルギー資源 【内取3(8)イ 放射線の性質と利用】 イ 科学技術の発展 ウ 自然環境の保全と科学技術の利用 【内取3(8)ウ 2分野と総合的に扱う】</p>
第2分野	<p>(5) 生物の細胞と生殖 ア 生物と細胞 <u>(7) 植物と動物の細胞の特徴</u> 【→ H22の移行措置で第2学年で指導済】 (イ) 細胞分裂と生物の成長 イ 生物の殖え方 (7) 生物の殖え方</p>	<p>(5) 生命の連続性 ア 生物の成長と殖え方</p> <p>(7) 細胞分裂と生物の成長</p> <p>(イ) 生物の殖え方 イ 遺伝の規則性と遺伝子 【内取3(6)ウ 分離の法則, 遺伝子の変化による形質の変化, 遺伝子の本体はDNAであること】</p>

- (6) 地球と宇宙
ア 天体の動きと地球の自転・公転
(7) 日周運動と自転
(1) 年周運動と公転

- イ 太陽系と惑星
(7) 太陽系と惑星、恒星

- (7) 自然と人間
ア 自然と環境
(7) 自然界のつり合い
(1) 自然環境の調査と環境
イ 自然と人間 (1分野との選択)

- (6) 地球と宇宙
ア 天体の動きと地球の自転・公転
(7) 日周運動と自転
(1) 年周運動と公転

- イ 太陽系と恒星
(7) 太陽の様子
(7) 惑星と恒星
(1) 月の運動と見え方
【内取3(7)ウ 日食や月食】

- (7) 自然と人間
ア 生物と環境
(7) 自然界のつり合い
(1) 自然環境の調査と環境保全
イ 自然の恵みと災害
【内取3(8)ウ 地球規模でのプレートの動き, 地域の災害】
ウ 自然環境の保全と科学技術の利用
【内取3(8)エ 1分野と総合的に扱う】